

経営日本語教育システム —GMAISによる組織学習—

沢 恒雄^{†1}

経営日本語システムのコースを開発した。目的は、コースの計画・実践・評価・再活用の過程で蓄積される「実践知」を言語化することである。その実践知は、重要な知的資産となる。経営日本語教育の教員や組織にとって業務の効率化と効果化が謀れる。「実践知」の言語化は、構成主義や質的研究をベースにして GMAIS (Global Model Architecture Information system) の機能である思考支援や合意形成支援環境等と統合化する。経験知はかなりの暗黙知を含む。それは、実践知として定義して、言語化してモデルベースを構築する。

System of Management Japanese education (Organization study by GMAIS)

TSUNEO SAWA^{†1}

The course of the management Japanese system was developed. The purpose is to make "Practice wisdom" accumulated by the process of the plan, practice, the evaluation, and the re-use of the course a language. The practice wisdom becomes an important, intellectual property. Efficiency improvement and making the business an effect can be plotted for the teacher and the organization of the management Japanese education. Making "Practice wisdom" a language is integrated with the idea support and the consensus building support environment, etc. that are the functions of GMAIS(Global Model Architecture Information system) based on constructivism and the qualitative study. Experience wisdom contains considerable tacit knowledge. It defines as practice wisdom, makes to the language, and constructs the model base.

1. はじめに

政治・経済・社会の諸相でグローバリゼーションへの遷移が著しい。日本は、人類の健全な存続に貢献するために文化・文明立国を目指すべきである。そのためには、言語政策、国語教育・日本語教育の場当たりの施策ではなく、国家戦略として政治的・外交的に日本・日本文化・日本語を情報発信する政策を実行すべきである。専門日本語教育は、従来日本語教育と専門領域の専門家の協働で、コース開発、教育実践から評価までを行ってきた。本研究は、専門日本語教育の専門領域を経営分野として設定し「経営日本語教育コース」を開発し、教育実践し、評価する一連の活動をモデルとして蓄積し、教育実践の質的・量的な向上を目的とする。

1) システム関連の定義

*GMAIS (Gblal Model Architecture Information System)

*PIACS (Practical Intelligence Acquisition Control System)

2) 用語の定義

①知識・知恵・智謀：GMAISでの経験知

② 実践知：金井尋宏・楠見孝(2012)は、主に組織のメンバーが業務に熟達していく過程で、教育・訓練や日常業務から得られる知識の総称として「実践知」としている。

③形式知・暗黙知：野中郁次郎・竹内弘高(1996)

④ 省察(reflection)：経験から教訓を引き出すのに役立つ役割で、経験から学習における省察には、振り返りの省察と見通しの省察である。

⑤持論(practical theory-in-use)：実践家は、個別の実践に根づいたもので、個人の省察を繰り返すことで、経験に基づいた確信として記憶されて実践の中で参照される。

^{†1} 遊工学研究所 AUN Engineering Institute

2. 日本語教育環境における「実践知」獲得と思考支援の統合

リーダーシップを育むのに有益であった出来事の調査によると、経験、薫陶、研修のウエイト、70:20:10であったという調査結果がある。

①GMAIS・思考支援・意思決定支援環境とモデルベースによる知財化：GMAISは、「思考支援環境」、「合意形成支援環境」及び「集団意思決定支援環境」の提供を機能とする情報システム概念で、各種の適用業務で実現している。本研究では、日本語教育システムへの応用を考察した。沢恒雄(1996, 2012)

②構成主義・質的研究・実践知とGMAIS概念との整合性：21世紀を境にして研究活動での方法論的な遷移があった。研究方法が、工業化社会における「実証主義」から、知識社会における「構成主義」へと変化をしたというのが研究方法の遷移であり、パラダイムの変換である。質的研究の方法は、木下康仁によるM-GTA (Modified Grounded Theory Approach)による方法で、データ収集⇒概念化⇒カテゴリー化⇒結論としての理論をする方法論であり実践知の言語化を語る。

③日本語教育業の現状：日本語教育産業の現状とICT利活用不全、零細企業の実態：日本語教育産業の実態は、零細で弱小である、教員の待遇も極めて劣悪である。組織としての形態もICTの利活用が希薄で、経営も健全であるとはいえない。教員の滅私奉公的な、ボランティア活動に依存した経営が実態である。

3. 経営日本語教育コースの概要

① ビジネス日本語教育の実態研究：「ビジネス日本語教育教材」数冊の分析総括をした結論は、極めて初歩的な領域に留まっている。

②経営日本語教育コースの範囲と概要：経営学入門コースと経営学の応用として組織活動でもっとも重要な「組織学習」のコース開発と実践を行う。「組織学習」コースは、本研究でのPIACSのと理論的背景の内容とする。

4. 経営日本語システムPIACS

① 経営日本語教育による実践知の獲得モデル：経営日本語教育コース開発・実践のあと最初のモデルとしてモデルベースに登録する。この際の省察が、最初の「実践知」なる。その省察をモデルに反映させて、編集した内容のコースで2回目の実践を行う。その評価と省察の結果で、2回目の「実践知」が得られて、モデルが再編集される。いわゆるPDCAをまわす過程でコースの内容が精緻化されていく。

②実践と思考支援・質的研究手法による「実践知」の獲得システムの概要：GMAIS概念で「暗黙知」と「実践知」をG-MTA法で統合化し言語化・顕在化された「実践知」をモデルベースに反映して経営日本語教育の効率化と効果化を謀る。

5. 結論として効果と効用

専門日本語教育実践時の経験知獲得と効率化、知財活用における日本語教育環境の改革、専門日本語の新規領域コース開発への応用システム展開、日本語教育業の組織改革、組織の変革・改革のきっかけとなり組織力の強化が謀れる。さらに組織の事業継続計画への展開などである。

参考文献

- 金井尋宏・楠見孝(2012)『実践知』有斐閣
 木下康仁(2011)『ライブ講義M-GTA 実践的質的研究法』弘文堂
 久保田賢一(2000)『構成主義パラダイムと学習環境デザイン』関西大学出版部
 沢恒雄(1996)「グローバル・モデル・アーキテクチャGMAモデルによる情報システムGMAIS」特許公開番号：特開平10-198647
 沢恒雄(2012 PP119-126)「日本語教育資源・資産の総合的管理システムの概念：GMAISによる総合的LMS&拡張CALL」教育システム情報学会電子情報通信学会
 野中郁次郎・竹内弘高(1996)『知識創造企業』東洋経済新報社